

令和7年12月5日（金曜日）

竹田市立竹田南部中学校 安東 義貴先生の授業です。

授業の単元は、第1学年「比例と反比例」。例年、学校で実施される強歩大会（今年度は授業翌日に実施）を基に、表、式、グラフを活用し、2人の生徒がゴールするまでの状況を捉え、説明をするという日常の事象を、比例を用いて考察し、表現する場面です。

導入では、2人の生徒の進んだ時間と距離といった2つの数量の関係を比例とみなして考える際に、数学学習ソフトウェアを用いて、2人が進む様子のグラフをアニメーションで示すなど、視覚的な理解を図ることができるような工夫がなされていました。

また、問題解決の見通しをもたせ、その見通しを学級全体で共有する際に、比例を用いる場面では表、式、グラフを用いて説明すればよいと考えた生徒に対して、安東先生は「何を用いるか」と問い掛けました。その際、「式を用いる」と発言した生徒に、「どのような式か」と問うなど、生徒の考えが不十分な場合、生徒自身が補い、考えを深めることができるような問い掛けを意識して行っていました。

事後研では、授業を構想する際に、具体的な評価規準を設定し、生徒の学習状況の確実な把握に努めるとともに、「努力を要する状況」にある生徒に対する手立てを講じることの重要性、生徒の思考を整理したり促したりする板書や思考の過程を振り返ることができる板書といった板書の構造化を意識することの大切さ等について確認しました。

安東先生は生徒の数学に対する意欲を高めることができるよう、生徒にとって身近な事象を教材とし、算数・数学の問題発見・解決の過程を意識した授業を行うことを心掛けているようです。

ぜひ、今後も教材研究を深め、より多くの生徒が数学の楽しさ、有用性を感じられるような授業を続けてほしいと思います。

